

メープルレター（93）

夏時間に変わりました。

ある日曜日の朝、目が覚めると、1時間、時間が進んでいます（冬時間の時は1時間遅らせます）。寝坊ができない（冬時間は寝坊ができます）不思議な時間調整です。これに慣れるには、2－3日かかります。

こんな日曜日の朝でしたが、遅れていた孫娘（娘の娘）の4歳の誕生日をすることにしました。娘は、既に、メンバーになっているジムの1室を借り、保育園の友達15人とその親たちを招待してお祝いをしていました。子供達を遊ばせるので、ジムが楽なのだそうです。義両親もオタワからやってきて参加していました。これが一回目の誕生日会。その翌週末は、親しい友人たちの子供と長兄親子（ほぼ4歳の娘と長兄）を自宅に招待してお祝いをしていました。この自宅のお祝いにはサプライズがありました。アニメの雪の女王がやってきたのです。雪の女王は子供達とお話しをしたり、遊んだり、写真を撮ったりしながら一時を過ごしてくれました。参加した女の子たちはチュールのドレスを着て、雪の女王を囲み、プリンセスになり切っていました。夢のような時だったようです。契約をしておく、扮装をした色々なアニメスターがやってきて、子供達と遊んでくれます。これが二回目の誕生日会。こちらの誕生日会は、なかなか派手です。親にも大事なイベントなのでしょう。

3回目の誕生日会は小規模な親子、孫のみの誕生日会です。前日、娘から、

「ねえ、手作りピザ食べない？」

このところ、婿殿はクリスマスプレゼントのピザ焼き器でピザ作りに凝っているようです。

「勿論、食べる！」

前日から寝かせておいたピザ生地を上手に伸ばし（まだ空中に飛ばして回すほどにはなっていないようです）、一つ目は、ナチュラルなトマトソースの上にモザリアチーズと

バジリコの葉を散らし、パルメザンチーズをふりかけて10分ほど焼いたピザ。二つ目はキノコのピザ、そして3つ目はアサリのピザ。程よい焦げ目がついた薄い生地のピザは、焼け焦げが香ばしく、何ともおいしかったのです。そうそう、ナポリには、ナポリ風のピザ焼き職人の養成コースがあるようです。きちんと修了証書もでるようです。

「キャンテイーワインがあったら、最高ね。あらー、文句は言えないわ。ともかく美味しいピザをありがとう。」

婿殿は、こんな小回りのきく、オタワ出身のサービス精神一杯の人です。コーヒーも極上の物を各自の好みにあわせて入れてくれます。何だか、喫茶店に行って軽くランチをしている感じです。

孫娘は、こんな父親といつの間にか英語で話すようになっていました。4歳の子には、バイリンガルは生存方法でもあるようです。去年の夏、父方の祖父母たちとシャレーで過ごしたバカンスで、英語を話さない限りは、コミュニケーションがなりたないと、幼心に身に染みて感じたようでした。このシャレーでの2週間で英語で暮らす方法をも身につけていったようでした。娘の住む界隈は、フランス語系の人たちの住む一角なので、保育園も友達もフランス語、でも、家に帰れば父親とは英語です。多国籍の人の住むところですから、家でフランス語と英語やスペイン語などもう一か国語というのが全く普通の子供達です。二つの言語を同じようなレベルで話す子は稀なようですし、確実な能力の発達の上でバイリンガルが本当に良い事かどうかはわかりませんが、どこに行っても暮らせる子にはなりそうです。日本語ですか、これはアニメを見て雰囲気をつかむ程度です。ただ、日本語の音はわかるようです。こうして、美味しいピザ、美味しい濃いコーヒーとバースデイケーキで3回目の誕生日会は過ぎていきました。

マダム田中の乳がんの治療は、放射線治療が本格的に進んでいます。半分以上をクリアし、残すところ7回となりました。治療のポジションをあらかじめ型どりしておき（放射線をあてている間は身動きはできません）、スキャナーにかけ、放射線をかける位置

が決めておきます。毎回同じように、用意された型の中にすっぽり、腕を入れて、体の位置を固定し、治療を受けます。放射線技師たちはとてもやさしく、有能です。だいぶ慣れてきました。時々、日本語で話かける技師もいて、

「えー嘘！」

話しが盛り上がることもあります。放射線治療の副作用なのか、治療後は寝込むほどではありませんが、深い疲れを感じます。それでも、元気に病院まで、あちこちの古い建物の間を通り抜けながら、お散歩気分です。20分ほど歩いて通っています。

窓から見える遠くの山脈の向こうはアメリカです。カナダいじめをやめないトランプが毎日山のような書類にサインをして条件を課してきています。ここ1か月間は、トランプのジェットコースターのように変わる条件の報道で終始する日々でした。カナダは第一次資源をアメリカに輸出して成り立っている経済なのだと思われて改められて考えさせられます。自国の産業を余り持たないのです。イケメンのトルドー首相は辞任し、新しい英語系のださい男が首相になりました。代々、カナダの首相はバイリンガルであり、アメリカに振り回されない判断力のある人だったのですが、この首相は、何だかとてもアメリカ的な首相です。

今、世界の政治の焦点になっているウクライナ戦争は、侵略を続けるロシアと各国の様々な思惑の中で、解決は困難を極めていくようです。ウクライナのゼレンスキー大統領は、ドキュメンタリーでみると、元は歌や踊りで人気の売れっ子のコメディアンだったようです。何ともダンスが上手です。彼の特技は会話力で人の心をつかむことのようなようです。ある時国民を守る宿命を感じたて政治家になったとはいえ、これが大統領になれた大きな要因だったようです。まあ、郷ひろみが大統領になったようなものでしょうか。南仏に15億円の別荘を持ち、かなりお金持ちのようです。

そうそう、我が家の前の工事は昨年末に終わりました。車道には石が敷き詰められ、今は綺麗な車道になりました。車道は駐車禁止になり、周りの古い建物との調和のとれた美しい古い一角となりました。まるで19世紀にタイムスリップしたかのようです。春には観光客でにぎわうことでしょう。